



見代ひろこ 《子ども2人》*



アルフォンス・イノウエ 《いこい》



武井武雄 《自由》
©岡谷市/イルフ美術館



柳田基 《張子》* 部分



松原秀子 《童と鬼灯》部分

カラフル！ 日本の蔵書票

— 技ひかる小版画の世界 —



松原邦光 《ランプ 蜘蛛》



平塚昭夫 《3人のオランダ人》*



川西祐三郎 《富士山》



内藤八千代 《白狐橋と蝶》



横田稔 《りす》



若月公平 《ふくろう》



栗田政裕 《裸婦と百合》



川上澄生 《鉄道馬車》*

2025.

5.19 月 ▶ 7.19 土

開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日：日曜日、祝日、6月19日（土）

関西学院大学博物館（西宮上ヶ原キャンパス時計台）（入館無料）

（阪急今津線「甲東園」もしくは「仁川」駅より徒歩15分、または「甲東園」駅より阪急バス5分「関西学院前」下車）

後援：大正イマジユ学会、西宮市

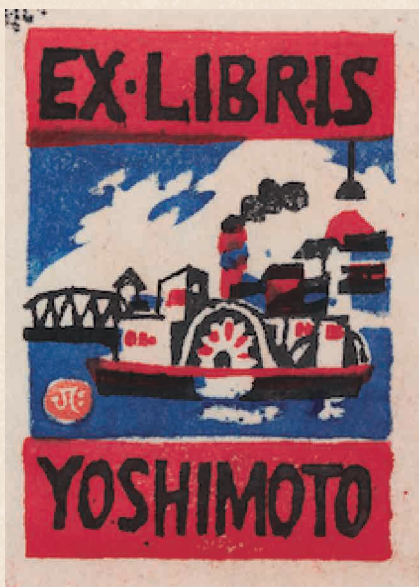


関西学院大学博物館

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL 0798-54-6054

<https://www.kwansei.ac.jp/museum>



川西英 《港》*



棟方志功 《鴨》*



芹沢銈介 《小鴨蔵書》*

*のついた作品名は当館による。

カラフル！ 日本の蔵書票

技ひかる小版画の世界

関西学院大学博物館には、蔵書票、豆本、版画など1万点を超える原野賢吉氏のコレクションがあります。この原野コレクションは1930年代から2000年代に制作された蔵書票を中心に構成されており、そのなかには前川千帆や川西英、川上澄生、畦地梅太郎、棟方志功といった昭和を代表する作家たちの作品も含まれます。本展はこの原野コレクションを主とした蔵書票の展覧会です。

蔵書票とは本に貼られる小さい版画のことで、その持ち主を明らかにする役割があります。15世紀にヨーロッパで生まれた蔵書票は、明治時代に『明星』や『白樺』といった文芸雑誌を通して日本にもたらされました。以来、創作版画の作家たちによって作られるようになり、メゾチント、エッチング、板目木版、木口木版、型染などさまざまな技法で制作されました。

そこで本展では、日本の蔵書票に見られる技法の多様さとそれによる色彩豊かな表現を蔵書票の「カラフルさ」と捉えました。蔵書票の技法に注目することで、創作版画の歴史における日本の版画表現の広がりをお見せします。また、「カラフル」な蔵書票たちは用途としての枠を越え、小版画としても鑑賞され、愛されてきました。ここではそのような蔵書票愛好の諸相についてもご覧ください。



畦地梅太郎 《坂本蔵》*



恩地孝四郎 《EX LIBRIS KATO TONOSUKE》*

【開催記念イベント】

事前申込制

「銅版画の蔵書票ができるまで 解説&刷りのデモンストレーション」

銅版画の「制作現場」として、版に描く場面、インクを詰めプレス機で刷る工程を実演します。また、腐蝕の様子は映像で説明し、制作への姿勢や作品の内容解説をします。

講師：若月 公平 氏
(版画家、東北芸術工科大学名誉教授)

日時：2025年6月13日(金) 13:20～15:00

会場：関西学院会館1階「翼の間」

聴講無料、事前申込制(先着60名)

申込方法：イベント管理プラットフォーム

Peatixからお申込みください。

URL <https://kg-shohyo2025.peatix.com>

※お申し込みにはPeatixアカウントの作成が必要です。



前川千帆 《及川藤男蔵書》

◇休館日

日曜日、祝日、6月19日(因)

※詳しいスケジュールは、関西学院大学博物館ウェブサイトでお知らせしています。

◇開館時間

9:30～16:30(入館は16:00まで)

◇入館無料

◇交通案内

電車 阪急電鉄「甲東園」駅または「仁川」駅下車 徒歩約15分

バス ・阪急電鉄「甲東園」駅から約5分「関西学院前」下車

・JR「西宮」駅から約20分「関西学院前」下車



時計台内部のアイアン
ワーク復元プロジェクト
の詳細はこちら



関西学院大学博物館

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL 0798-54-6054

<https://www.kwansei.ac.jp/museum>